

はにい

10桁の数

平成26年6月13日



黒板に、大きなノート（ノートの拡大コピー）が貼られました。水性ペンで書けば消せるように加工してあります。まるでお手製ホワイトボード。小さな工夫です。

子どもたちは自分のノートで、先生といっしょに、問題を書きます。

「0から9までの数字のカードがあります。どれも1回ずつ使って、10けたの整数をつくりましょう。」

0～9の数字が書かれた1枚のプリントが配られました。まずは、各自でこれを切っていきます。

最初から切り分けたカードを渡すのではなく、自分で切らせる。手を使う作業は脳を活性化するし、1枚に印刷されたものから切っていけば「0～9を1回ずつ」という課題の把握にも役立ちます。これも小さな工夫。



カードはすぐ切れました。そこで、条件が付けられました。

「一番大きな数をつくりましょう」

机の上にカードを並べて10けたの数を作ります。

二人の子に前で発表してもらいました。教卓の上でカードを並べると、大画面にそれが映し出されます。これは、教卓のスタンドに設置されているスマートフォンのようなカメラと大画面を無線でつなげた工夫です。

2通りの数が発表されました。

「9876543210」

「9087654321」

一番大きな数はどちらでしょう。

「1の位が0と1で、1の方が大きい！」

「え、上のほうが大きいよ」

「どうして？」

さて、どう説明したら、みんなが納得できるでしょうか。



『はにい』は、コミュニケーションツールです。 みんなで語り合いましょ。
ご意見・ご感想は → inochi4027@pref.kanagawa.jp